

2013年度は学内に於いては「車輪の再発明プロジェクト」（研究代表者：城一裕講師）に参加し、主に映像メディアに関わるワークショップやディスカッションを進めた。

学外での活動としては、ここ数年自分が展開している点光源による影のプロジェクトを行うインスタレーションを中心に制作・発表を行った。

物体の間を移動する点光源によるインスタレーション「10番目の感傷（点・線・面）」の再展示を国内外において多数実施。敢えて同じ作品を異なる文化圏で展示する事により、作者はその差異（鑑賞者のリアクションや雰囲気の違い、制作サイドの動きなど）が際立って感じる事ができた。

また、先述作品のヴァリエーションである「LOST」も題材を変えて数回制作した他、従来のパノラミックな投影に対してフレームを設ける事で、投影された映像と投影される空間の関係性を組み替える試みを「Lost Windows」「Lost Gravities」などでそれぞれ行った。その経験は「車輪の再発明」プロジェクトでのワークショップなどに活かされた。

展示設営は日程的に厳しく、ほとんどの展示に於いてオープニングに参加できず、国内外のアーティスト、キュレーターとの交流に時間を割くことができなかつたことが悔やまれる。次年度はその点留意して日程を調整したい。

なお、下記活動は基本的に自身の作家活動開始以来の作家名である「クワクボリョウタ」名義で発表されている。

## 学内での活動

### 1 「車輪の再発明」プロジェクト

プロジェクトの研究分担者として、授業および作品制作・展示に関わった。

- ・学内でのアナログ・プロジェクションマッピング・ワークショップ。
- ・卒制展で試行的作品二点「針穴をあけた紙を通したRGB光源による網点プロジェクション」および「写植文字盤による多光源植字」（瀬川晃准教授との共作）を展示した。

### 2 IAMAS紀要の寄稿

馬定延氏（東京藝術大学）のインタビューによって、デバイスアートから現在に至る自分の作品制作プロセスを論じた。前半は自分の制作のエピソードや影響を受けた作品やアーティストの話、後半は現代美術とメディアアートの方法の違いなどの作品制作論と、IAMAS出身者として現在のIAMASについての所見を述べた。



針穴をあけた紙を通したRGB光源による網点プロジェクション



写植文字盤による多光源植字



アナログ・プロジェクションマッピングワークショップ

学外での活動（展示）

1 『Pavillion 0』（ヴェネチア、6/1~9/30）

この展示会はポーランドのSignum Foundationが主催する企画展であり、ヴェネチア市内に所有する施設PALAZZO DONÀにて開催された。開催はヴェネチア・ビエンナーレと同時期であり、展示設営を兼ねてビエンナーレも視察した。「10番目の感傷（点・線・面）」を展示。



ヴェネチア展示会場

2 市原湖畔美術館（千葉県市原市、8/3~常設）

館のオープンに合わせて、館の地下室（半屋外）に新作「Lost Windows」を設営した。

3 『不思議な世界と影のおしゃべり展覧会』（ゆめたろうプラザ、武豊市、8/10~18）

武豊市にある市民会館での展示。新作「LOST #9」を展示。

4 『おおがきビエンナーレ』（IAMAS、大垣市、9/6~16）

新作「LOST #10」を展示。



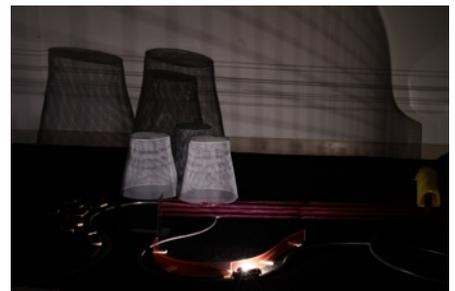
Lost Windows

5 『一年目の消息 語りかけることができる「君」』（つなぎ美術館、熊本県津奈木町、9/7~12/1）

津奈木町の赤崎小学校は海の上に建つ日本でも珍しい立地で知られる。現在は閉校した小学校を取材し、学校の備品を使用して構成した新作「LOST #11」を展示。

6 『反重力』（豊田市美術館、9/14~12/24）

新作『Lost Gravities』を展示。



LOST #10

7 『Media/Art Kitchen』（クアラルンプール、10/5~20）

国際交流基金主催のASEAN友好協力40周年を記念した企画に参加。当企画はジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、バンコクの4カ国で展覧会を実施し、ASEANおよび日本のアーティストが参加した。

「10番目の感傷（点・線・面）」を展示。オープニングでは自作の構成について講演を行った。

8 『スマートイルミネーション横浜』（みなとみらい、横浜、10/23~27、11/8~9）

みなとみらい地区のイルミネーションイベントに非常勤講師を勤める多摩美術大学の学生とともに参加した。ペリー来航



クロニクルキューブ

以来のみなとみらいの歴史を立体影絵にしてキューブに収めた「クロニクルキューブ」を展示。11/8-9にはワークショップユニット「ハハコラボ」による一般の子どもたちが作った影絵キューブとともに横浜美術館前広場で展示をおこなった。

- 9 『MONO NO AWARE』 (エルミタージュ美術館、サンクトペテルブルク、11/15-2/9)

エルミタージュ美術館には数年前より現代美術を扱うセクションが出来、初めて日本人の若手／中堅アーティストを集めた展示を企画が行われた。

「10番目の感傷 (点・線・面)」を展示。

- 10 『Media/Art Kitchen』 (バンコク、12/20-2/16)

上記クアラルンプールと同企画。政治情勢が不安定なこともあり、一時期展示が中断するも無事会期を終えることができた。

- 11 『Perth Festival』 (ジョン・カーティン・ギャラリー、パース、2/7-3/1)

オーストラリアのパース市で毎年開催されるアートフェスティバルの一環としてカーティン大学内のギャラリーで行われた展示。展示施設及び展覧会スタッフの充実ぶりは格差を感じざるを得ないほどであった。

- 12 『Variations of the Moon』 (ナムジュン・パイク・センター、京畿道、2/20-6/29)

ナムジュン・パイク・アートセンターでの企画展への出品。

「10番目の感傷 (点・線・面)」を展示。

- 13 「あそびのつくりかた」 (丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、3/1-6/1)

(主に) 子どもたちを対象にした、あそびの創出をテーマにした企画展への出品。

「10番目の感傷 (点・線・面)」を展示。



エルミタージュ美術館



10番目の感傷 (点・線・面)



ナムジュン・パイク・アートセンター



丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

学外での活動（講演、ワークショップ）

- 1 講演「表現者になることー社会的実践とキャリアパス」および、「アナログ・プロジェクションマッピング・ワークショップ」（札幌市立大学・札幌大谷大学共催、10/28-29）

主催の両大学学生および一般を対象した講演とワークショップ。

講演では学生時代の状況からアーティストとして活動をするまでのプロセスを主題に話した。

また、従来の影絵をプロジェクションマッピングという概念を通して再発見する試みを行った。



札幌でのワークショップ

- 2 対談「懐かしさの未来」（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター、7/11）

「懐かしさ」をめぐり、著書『創られた「日本の心」神話ー「演歌」をめぐる戦後大衆音楽史』で知られる輪島裕介准教授（大阪大学）と対談を行った。我々が何かに触れて感じる「懐かしさ」、その感情はメディアによって誘導されているのではないかという問題提起。

- 3 対談「原点×現点ーroots×contemporaryー」（京都市立芸術大学、11/2）

京都芸大の芸祭実行委員会主催による、音楽家の千住明氏とのトークイベント。

アートと音楽の違いに端を発し、制作に於ける先進性とポピュラリティの関係について意見を交換した。

---